

# 新学期と and so on について

寺 秀幸

四月になるとまた新入生との付き合いが始まる。

最初の授業では、英語で自己紹介をしてもらうことが多いがのだが、そのときに学生が使う英語の中にいつも気になる表現がある。それは、**and so on** である。

I like watching soccer, listening to music, and so on.

I have been to Australia, Korea, and so on.

日本語に訳せばどれも自然な言い方であり、問題はない。

私はサッカー観戦や音楽鑑賞などが好きです。

今までにオーストラリアや韓国などを訪問しました。

だが、この **and so on** はおかしい。どこか英語らしさに欠ける。

英語の **and so on** は、ある範疇に属す物を列挙するときに他にも例があることを示唆するための道具である。したがって、この表現を使うときは、どのような範疇を話題にしているかを明示する必要がある。

I like junk food. I often eat donuts, hamburgers, and so on.

これを聞けばだれでも、**pizza** や **fried chicken** など他の **junk food** の例を頭に思い浮かべることができる。

また、たとえ範疇が明示されていなくても、少なくとも、文脈的、社会的、文化的に何の範疇を指しているかが推測可能である必要がある。

For breakfast, I had bacon, eggs, toast, and so on.

The travel agency offers a lot of information about transportation, reservations, and so on.

冒頭の学生の例文に違和感を覚えるのは、そこで列挙されている項目から話し手がどのよ

うな範疇を想定しているのかが容易に推測しがたいからである。

I like watching soccer, listening to music, and so on.

I have been to Australia, Korea, and so on.

おそらく、ここで使われている and so on は、日本語の「など」の直訳であろう。

日本語の「など」は and so on よりも広い用法をもつと思われる。もちろん、and so on と同じように、与えられた範疇に属すものを例示するときの道具として使うことは可能だが、属す範疇が不明瞭な場合でも使って構わないのだ。「私は旅行などが好きです」は、旅行以外に何が好きなのかさっぱりわからない文だが立派な日本語である。

もちろん、and so on でも、これと同じように範疇が明示されない用例は頻繁に見かけられるが、それでも、文脈や社会的共有知識などから容易に推測できる場合が多いのではないだろうか。

Apple's Discussion Forums are places where users of Apple products can meet together and talk about problems and so on.

([http://blogs.computerworld.com/17201/what\\_to\\_expect\\_from\\_apple\\_today](http://blogs.computerworld.com/17201/what_to_expect_from_apple_today))

さらに、日本語の「など」は、(多分、「そのような類に入る特別なもの」というような意味から転じて) 一種の強調を表すことがある。

彼女は決してうそなどつきません  
そんなお金のことなど知らないわ。

転じて、軽蔑や謙遜のニュアンスを表すこともある。

おまえなどが口出しすることではない。  
私などにはもったいない話です。

英語の and so on が項目列挙の補助という比較的「機械的な」働きをしているのに対し、日本語の「など」は、例示を曖昧化したり、反対に際立たせたりして、話し手の「主観的表現」にかかわる働きをしていると言えるかもしれない

話をもとに戻すが、四月の授業で新入生が and so on を使ったら、今年こそは日本語の「な

ど」との違いを忘れずに説明しようと思う。

ついでに、**and so on** をつけないで単に要素を並べるだけでもたいていは事足りることも教えよう。

**I like watching soccer and listening to music.**

私はサッカー観戦や音楽鑑賞などが好きです。

**I have visited Australia and Korea.**

私はオーストラリアや韓国などに行ったことがあります。

さらに、ここまで話すのなら、範疇とそれに含まれる項目の両方を示す表現も教えたい。

**We talked about some global issues including / like / such as climate change, human rights and nuclear proliferation.**

**She spoke French, German and some other languages.**

**They grow oranges, lemons, and the like in this area.**

だが、ここまで考えて、いつも思いとどまってしまう。最初の授業でこんな細かい話ばかりしていたら嫌がられるかもしれないなあ。もっと楽しいことを話さなければ……。

悩んだ挙句、方針を変え、「実は、**and so on** はちょっと硬い表現なんですよね。会話では **and stuff like that** とか **and things like that** みたいな軽い言い方もあるから覚えておこうね」などと話してお茶を濁してしまう。

そして、そのうち山のように仕事が増えて、「など」などの話をする時間はなくなり、やがてまた次の四月を迎えてしまう。

(2013/02/24)